

第36回 〈ケア〉を考える会-岡山

■日時： **2017年12月10日(日)** 14:00~16:30

■会場：川崎医療福祉大学 本館6階6001演習室

http://www.kawasaki-m.ac.jp/mw/access/index.php/*

※建物の1階(防災センター)から備え付けのスリッパに履き替えてお上がり下さい。
駐車場は、福祉大学の職員・学生駐車場(病院とは道をはさんで北側)が利用できます(1時間100円)。

■会費：無料。どなたでも参加できます。



■内容

「市民ランナーの目線 からみた現代社会 ～健康と快樂を求めて～」



報告： **河合 清志** さん (社会福祉士)

社会福祉士として「成年後見」「権利擁護」や「ネットワーク」などをテーマに活躍する傍ら、各地のマラソン大会に数多く出場する自他ともに認める市民ランナーの河合さん。仲間たちとキャンプや山歩きなども楽しんでいきます。酒席で日本酒の杯を重ねる姿も似合います。自然と人間(と酒)をこよなく愛する河合さん。

会では河合さんから「幸福追求と余暇」「生涯スポーツ」「都市型マラソンと地方のマラソン」「マラソンと人生」など、いくつかの視点から、現代社会や人生についてのお話を伺って、参加の皆さんで対話します。

■問い合わせ： 884michiya@gmail.com 090-5366-1497 (林)



「〈ケア〉を考える会-岡山」とは……

▼岡山(倉敷)で、〈ケア〉について学び考えています。

〈ケア〉といえば、「看護」「介護」「支援」「世話」などが頭に浮かびます。超高齢社会を生きる私たちにとって、切実な課題の一つです。そして、〈ケア〉は、もっと広く捉えることもできます。たとえば広井良典氏は、ケアを「人と人との間の『関係性』」という意味に理解してみたいと述べ、さらに、個人がコミュニティや自然などとつながっていくような方向でもケアを考えます。「『ケアの哲学』」とでもいうようなものが「必要」とも言っています。また、鷲田清一氏は「臨床哲学」の重要テーマの一つに「ケア論」を置き、「ケア」の奥深さをさまざまに説いています。それに、「死生観」、「生」と「死」について、リビングウィル、終末期医療も、〈ケア〉を抜きには考えられません。

この会では、〈ケア〉について、身近なところから理念的なものまで、そして、狭い意味から広い意味まで、幅広く深く考えていきます。

▼この会の参加者は、医療・看護・介護・福祉・教育などの現場、または地域や家庭などで〈ケア〉に関わっている方、大学や学校で〈ケア〉の教育・研究に携わる方や学んでいる方、さらに、その他、〈ケア〉に関心や関係のある方などです。〈ケア〉に関わる人たちが学び交流することで、明日からの力を得る「場」となることを願います。この会は参加者の“つながり”を大切にします。

※ ホームページ ⇒ <http://okayama-care.jimdo.com/>

